



坂戸市立千代田小学校 令和5年7月18日発行 第4号

《学校教育目標》

「かしこく やさしく たくましく」

ちよだ

文責 校長



子供への声かけ、大丈夫ですか

夕方、お子さんに「宿題はやったの?」「まだやってないの?」などと声をかけていないでしょうか。

「今日の宿題はどんなものだったの?」「おもしろい宿題あった?」と言い換えるだけで印象や反応は大きく違ってきます。

私たちがそうですが、子供たちに何かをやらせるのではなく、やったことを認める、またはやっていないことに興味をもって挑戦させる、そんな教育やしつけを心掛けたいものです。待つことも多く辛抱が必要なことではありますが・・・。

昨年度特別活動について学校だよりで紹介させていただきました。実はこの特別活動は主体的・自治的な取り組みとして非常に効果を生む活動です。

例えば、掃除に全く取り組もうとしない児童がいたとします。(実際本校の児童はとても良くてやっていますが) この掃除をしない児童に教師が「何やってるんだ。ちゃんとやりなさい。」というよりも

「きれいな学校にしよう」などという題材で話し合い活動を児童自身の手にならせると、教師が言うよりもずっと即効性があり、効果が長続きします。

自分自身で(自分たちで)決めたことはしっかりやろうとする。人に言われてやっているうちはその時だけで本物ではないということなのでしょう。

何か本人に決めさせて任せてみる、そんな夏休みにしてみてもいいのではないでしょうか。

体験活動のススメ

6月、7月と6年生児童と面談を行いました。子供たちの一番の思い出はほとんどの児童が5年生の時の宿泊学習と答えていました。日常と違う行事は何よりも心に残るようです。

県でも「埼玉の子供70万人体験活動」と称して、子供たちの体験活動を推進しています。

「都市化の進展や核家族化、少子化等により、地域社会における人間関係の希薄化が進む中で、子供た

ちは、多くの人や社会、自然などと直接ふれあう体験の機会が減少しています。子供たちには、思いやりの心や規範意識、学習意欲、目的意識、望ましい勤労観・職業観など豊かな人間性や社会性を育む体験活動が必要です。

そこで県では、すべての児童生徒が、在学中に自然体験、職業体験、勤労生産体験、社会奉仕体験や世代間交流を行うなど、家庭・地域・企業・NPOなどと連携して、発達段階に応じた様々な体験活動を推進しています。」県HPより

学校でも積極的に体験活動を今後も導入していきますが、ご家庭でもこの夏休み、可能な限り、非日常を味わう体験をしてもらえたらと願っています。心も体もよりよく成長した子供たちに2学期の始業式に会えることを楽しみにしています。

どうやって調べたらいい？

ある調査では、言葉を調べたとき、スマホで検索した単語は1つも記憶に残らず、紙の辞書で調べた単語は5つのうち2つが記憶できたという結果が出たそうです。便利だからと言って、インターネット等で簡単に調べて終わり…。これは大変危険なことであるという認識を再度持ちました。

脳が記憶を放棄してしまう「デジタル性健忘」というものがあり、「Google 効果」とも呼ばれているそうです。スマホで検索した情報は、覚えることができないというより、そもそも覚える必要がない情報と、私たちの脳はとらえているのだそうです。ですから、調べてわかってその場で満足ならデジタルで、学習としてつなげていきたいものはアナログで、使い分けながら上手に付き合っていきたいものです。

夏季休業中の連絡等について

休業中の学校には日直がおります。何か気になること等や緊急の連絡等は学校にお願いいたします。

なお、8月14日～16日は閉庁日となっておりますので、緊急の場合は市役所の学校教育課

(049-281-1331市役所代表電話)までご連絡ください。

夏の交通安全運動実施中

千代田小 いのちをまもる合言葉
止まれ！飛び出さな